

黒毛和種肥育牛にみられたマイコプラズマ脳炎 2 例

東播基幹家畜診療所

○三谷 睦 上田茂樹 奥田紳一郎 大山一郎 梁瀬 博 齋藤隆文

神経症状を伴い平衡感覚異常を呈した黒毛和種肥育牛 2 症例について、病性鑑定を実施した結果いずれの症例もマイコプラズマ脳炎と確定診断したのでその概要を報告する。

材料および方法

症例 1：2012 年 4 月 8 日生，去勢牛，2012 年 12 月 12 日県内 A 市場より導入。2012 年 12 月 21 日初診。稟告：「前日先端部のみ除角したが，食欲不振」，軽度の呼吸器症状呈し 1 月 4 日まで加療する。2013 年 1 月 12 日突然起立不能に陥る。四肢伸張，眼球振盪，呻吟。翌日起立する。1 月 15 日旋回歩行。1 月 22 日より食欲出現し始めるが，1 月 29 日突然転倒する。2 月 10 日右側顔面腫脹，変形する。2 月 14 日午後より起立不能に陥り横臥，2 月 18 日（58 病日）に病性鑑定殺を行った。

症例 2：2011 年 11 月 9 日生，去勢牛，2012 年 9 月 12 日県内 A 市場より導入。2013 年 3 月 29 日初診。稟告：「突然，歩き方がおかしい」，初診時，左側へ頭部を傾斜し旋回にて転倒。持続的な頭部の振盪。加療にて一時食欲出現も歩行失調継続する。5 月 13 日（46 病日）に病性鑑定殺を行った。

結果

症例 1：脳底部（脳下垂体周囲）に淡緑色の膿様物が多量に貯留し，髄膜は肥厚していた。左脳実質の中央から後頭にかけて連続した軟化病変を認めた。組織所見ではマクロファージ主体の炎症反応と線維化を伴う膿瘍を形成していた。肺は左前葉前部，後部，副葉は退色し含気性が低下していた。心臓は右心耳に重度の出血，左心耳，心外膜にも充出血病変が散見された。

脳底部の膿，大脳，小脳，脳脊髄液，肺より *Mycoplasma bovis* が分離され PCR 陽性。

症例 2：小脳上部の髄膜内に多量の緑色チーズ様物を貯留した直径 3cm の膿瘍をはじめ，巣～帯状の膿瘍が多発し小脳を圧迫，一部小脳実質にも波及していた。組織所見では巨大な乾酪壊死を伴い，壊死間では厚い結合組織を形成していた。肺は胸膜，心嚢膜と広範囲に癒着していた。右前葉に石灰化した膿瘍が多発し実質は重度に萎縮し含気性はなかった。内耳は鼓室胞の軽度拡張がみられた。

小脳膿瘍部，肺から *Mycoplasma bovis* が分離され PCR 陽性。

考察およびまとめ

2 症例ともマイコプラズマに起因する脳炎と確定診断した。症例 1 の脳底部への侵入は不明，症例 2 は内耳の鼓室胞拡張を認めたことから内耳神経等から侵入したと考えられた。さらに症例 1 での脳軟化病変はマイコプラズマに起因するものでは稀な病変であった。